

記事内容

- ☆特定(産業別)最低賃金/最低賃金周知行動
- ☆働き方セミナー/ネット21地域セミナー
- ☆女性のためのSTEP UPセミナー/地協ブロック連絡会、市長・町長政策懇談会
- ☆災害ボランティア救援隊「台風19号被災地支援」/ネット21運動「震災避難者支援」
- ☆関東ブロック「第28回海外交流視察団」
- ☆「九都県市首脳会議に対する要請書」提出/もうすぐ選挙/11月の行動予定
- ☆あけぼのビル

2019年10月に発生した台風19号により亡くなられた方々に
謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された地域の皆様には
心よりお見舞い申し上げます。

令和元年度 埼玉県特定最低賃金の改正決定について

埼玉地方最低賃金審議会は、本年8月5日(月)に埼玉労働局長から「特定最低賃金の改正決定について」の諮問を受け、5業種の特定最低賃金専門部会を設置し調査審議をおこなってきた。各業種とも特定最低賃金の引き上げ額について公労使で慎重かつ真摯な議論をおこなった結果、10月2日(水)、埼玉労働局長に対し、以下に示す改正額を答申した。この特定最低賃金額は、本年12月1日より効力を発生することとなる。

産業別	時間額(円)	引上額	引上率	発効日
非鉄金属製造業	944円	20円	2.16%	2019年 12月1日～
電気機械器具製造業、 情報通信機械器具製造業、 電子部品・デバイス製造業	951円	21円	2.26%	
輸送用機械器具製造業	961円	22円	2.34%	
光学機械器具・レンズ、 時計・同部品製造業	959円	21円	2.24%	
自動車小売業	957円	21円	2.24%	

(参考:既報)埼玉県地方最低賃金

時間額(円)	引上額	引上率	発効日
926円	28円	3.12%	2019年10月1日～

～ 公・労・使 で周知行動を実施 ～

県の最低賃金が10月1日より「時間額926円」(引上げ額28円)に改正された。

これに先立つ9月26日(水)、大宮駅西口にて、連合埼玉近藤会長、埼玉地方最低賃金審議会佐野会長、埼玉労働局木塚局長、埼玉県経営者協会石井専務理事ら「公・労・使」で最低賃金を周知する駅頭行動をおこなった。

労働者、使用者の双方が最低賃金を意識し、遵守改善をはかっていくことが非常に重要であり、連合埼玉としても周知活動を継続していく。



連合埼玉 近藤会長

「普通に働く人達が時代についていけるサポートを考えましょう」

働き方改革セミナー開催

9月24日(火)埼玉会館にて、構成組織・加盟組合の役員など連合埼玉より50名、全体で約100名の参加のもと、働き方改革セミナーを開催した。

長時間労働の是正や同一労働・同一賃金、多様な働き方の推進など「働き方改革」を実行するためには生産性の向上が必要不可欠であり、そのためには、働く人それぞれが「働き方」と「生産性」を意識し自身の仕事の進め方を工夫していく必要がある。このような背景のもと、「働き方改革」「生産性向上」「働く人の意識改革」を進めるうえでの一助とすべく、埼玉県生産性本部との共催にて、連合埼玉初となる働き方改革セミナーを開催した。



挨拶する近藤会長



挨拶する埼玉県
生産性本部山田会長



講師：日本総研山田氏



平尾副会長



パソナグループ加藤氏と
ライフネット生命保険岩田氏

セミナーの内容としては、特別講演として株式会社日本総合研究所調査部理事の山田久氏からこれまでの人事システムや現在の労働市場を踏まえた働く側の意識や人事システムに対しての提議を含めた講演をいただいた。

その後、株式会社パソナグループの加藤遼氏とライフネット生命保険株式会社の岩田佑介氏から新たな働き方や挑戦と成長を促す人事について、事例の紹介をいただいた。

引き続き、連合埼玉は「働き方改革」「生産性向上」「働く人の意識改革」「働き方と生活の調和(ディーセント・ワーク)実現」に向け取り組みを進める。

ネット21運動をつうじ、労働組合とNPOが地域でつながるために

～ネットワークSAITAMA21地域セミナー～

ネット21運動では、「NPO活動への理解と具体的な社会参加をサポートする事業」として、2017年12月9日に「ネット21運動でつながるNPOと労働組合—異文化交流から協働のステージへ」と題したシンポジウムを開催し、地域での労働組合とNPOとの連携をより深めることを目的に地域セミナーの開催を確認し、昨年9月には南部ブロックと西部ブロックで開催し、本年度は、東部ブロックを対象に9月7日(土)に越谷市中央公民館で、北部ブロックを対象に9月21日(土)に熊谷市立勤労会館にて開催した。



セミナーの様子



佐藤事務局長



村田専務理事

はじめに、「NPOと労働組合に求められているもの」と題し、連合埼玉佐藤事務局長とさいたまNPOセンター村田専務理事それぞれから説明があり、その後、すでに労働組合とNPOが連携をしている活動紹介、参加NPOによる団体紹介、ワークショップへと進んだ。

ワークショップをつうじ、労働組合がNPOの活動を、NPOが労働組合を知るきっかけになった。また、このセミナーをつうじて知り合った労働組合とNPOが連携を取り出したとの報告もきている。引き続き、労働組合とNPOが連携できるよう支援をしていく。

～ 女性が労働組合で輝くために ～

女性のためのSTEP UPセミナー(中級編)

女性委員会は10月11日(金)あけぼのビル501会議室において「女性のためのSTEP UPセミナー(中級編)～女性が労働組合で輝くために～」を構成組織より13名参加のもと開催した。当初10月11日、12日の2日間に渡り開催を予定していたが、台風19号の接近に伴い交通機関の運休や移動に伴う安全を考慮し10月11日のみの開催となった。

冒頭、女性委員会伏見委員長と連合埼玉佐藤事務局長より挨拶があり、このセミナーの開催趣旨や歴史が紹介された。次に、株式会社Story I 渡辺 照子氏より「ファシリテーション『会議の進め方』について」をテーマに実習形式の講演をいただいた。ファシリテーターとし

て会議の場でどのようにして参加者の意見を引き出すのかをポイントに、実習を交えて学んだ。続いてグループワーク「職場での困り事」をテーマにワールドカフェ形式の討議をおこなった。まずは各自で「職場での困り事」を洗い出し、その後チーム内で共有した。更にメンバーをシャッフルし、対応案の作成や各単組での取り組みの共有をおこない、最終的に色々なメンバーからいただいた意見を元に対応方法をまとめ、発表をおこなった。

今後も男女平等課題に対する理解を深め、女性組合役員の様々なスキルアップにつなげられるよう「女性のためのSTEP UPセミナー」の開催を予定しており、多くの女性組合役員に参加していただきたいと考える。



挨拶する伏見委員長



挨拶する佐藤事務局長



講師：渡辺照子氏



グループ討議



セミナー参加者のみなさん

全市町村で政策制度の実現を

地協ブロック連絡会・市長・町長政策懇談会

10月7日(月)に南部ブロック、8日(火)に東部ブロックをそれぞれ開催地とし「地協ブロック連絡会」と「市長・町長政策懇談会」を開催した。また、16日(水)の北部ブロック、18日(金)の西部ブロックでは、台風19号により県内各地での災害が発生したため「市長・町長政策懇談会」は中止とし「地協ブロック連絡会」のみ開催した。

各地協ブロック連絡会では、連合埼玉から近藤会長をはじめ、各地協ブロック担当の副会長・執行委員が参加し、各地域協議会からは地協四役が参加した。

会議では①2019年度活動経過報告および2020～

2021年運動方針、②2019年度政策制度要請(地協統一)、③今年度おこなわれた選挙関係について、活発な意見交換がおこなわれた。



市長懇談会の様子

市長・町長政策懇談会は、該当する市町の推薦・友好首長らと推薦議員が参加のもと開催され、南・東の2ブロック総計で8名の市町長、副市長らと、また、27名の推薦議員の参加があった。懇談会では、連合埼玉より2019年度政策制度要請(地協統一)の説明をした後、要請内容に基づき、各市町より「障がい者のグループホーム整備」「カスタマーハラスメント対策」「教職員の多忙解消」「高齢ドライバーの事故防止」「待機児童問題」など多岐にわたる、各市町の取り組み内容と、課題などについて報告があり、非常に有意義な意見交換の場となった。

連合埼玉は、今後も推薦議員だけでなく、推薦首長、友好首長との活発な意見交換をおこない、政策制度要求実現にむけた取り組みとしていく。



ブロック連絡会の様子

「台風19号県内被災地支援活動」実施

災害ボランティア救援隊 隊員62名を派遣

10月12日(土)に関東地方から東北にかけて通過した台風19号により日本各地で河川の堤防が決壊するなど大きな災害が発生した。埼玉県内でも都幾川、越辺川、九十九川の堤防が決壊し、その周辺の住宅などが水につきり甚大な水害が発生した。

連合埼玉では10月20日(日)、川越市と坂戸市の2ヶ所の水害被災地へ、災害ボランティア救援隊を派遣した。大変短い募集期間にもかかわらず、ボランティア隊員62名(事務局含む)の参加を得ての派遣であった。

当日は朝、東上線の霞ヶ関駅に集合したのち、マイクロバス2台に分乗し川越市と坂戸市のボランティア

センターに向かい受付を済ませたあと、それぞれの地域のボランティアのニーズに沿って作業をおこなった。

今回、ボランティア救援隊が入ったのは、川越市では「はつかりの家」という障がい者施設で、廃棄物の回収と分別をした。また、坂戸市では廃校になった旧北坂戸小学校のグラウンドで災害ごみの分別作業をした。

どちらの作業現場も前日の雨で足場はぬかるみ、泥と格闘しながらの作業であったが、各隊員は黙々と作業を進め、15時半には作業を終了し、全員が大きなケガもなく帰路についた。

参加いただいた隊員の皆さまに御礼を申し上げる。



分別作業の様子(坂戸市)



参加者のみなさん(川越市)

ネットワークSAITAMA21運動 東日本大震災に関する避難者支援活動

「バーベキューファミリー交流会inサイボクハム」

ネットワークSAITAMA21運動では、特別事業として2011年3月11日に発生した東日本大震災で埼玉県内に避難をされた方に対する支援事業として、2015年から実施している「バーベキューファミリー交流会inサイボクハム」を10月19日(土)に129名参加のもと開催した。

冒頭に、谷内運営委員長(連合埼玉副会長)より「震災から8年以上経過し、多くの方が埼玉県内に定住しており、この交流会にも毎年100名をこえる方々の参加をいただき盛大に開催できている。家族間の絆づくりのため、今後もこのような行事を企画して支援をしていく。引き続き、各行事に多くの皆さんの参加をいただきたい」と挨拶があった。

その後、参加者らは家族同士や友人同士でのバー

ベキューや、大抽選会などを楽しみ、参加者の笑顔が終始たえることはなかった。

参加者からは「久しぶりに会う家族も多くいて、時間を忘れて楽しめた」との話もいただいた。

次年度以降も、引き続き県内避難者支援活動をおこなっていく。



谷内副会長



交流会の様子

連合関東ブロック連絡会

～第28回海外交流視察団～

連合関東ブロックでは、欧州やアジア、オセアニア等、各国の労働組合との交流をつうじて相互理解の促進と先進的な活動を学習することを目的に、毎年視察団を派遣している。9月15日(日)～20日(金)の日程で「第28回海外視察団」はモンゴルへの視察をおこなった。

連合埼玉からは谷内聡副会長と古屋光一執行委員が参加した。

【日程】

9月15日	ウランバートル空港へ到着
9月16日	日本大使館 訪問 シバザキ製作所視察
9月17日	モンゴル労働組合連盟訪問
9月18日	「ガンダン寺」「テレルジ国立公園」 「チンギスハン騎馬像」ほか
9月19日	遊牧民族訪問 ウランバートル市内
9月20日	帰国

参加者の感想（連合埼玉副会長 谷内 聡）

今回の海外交流視察団の総勢17名は、チームモンゴルとして、「楽しもう」を合言葉に全員が初めてとなる未知の国を視察しました。

事前のイメージでは「どこまでも草原で、家畜と生活する遊牧民」しかありませんでした。ところが、日本の都市並みのビルやデパート、スーパー、レストランなどがある街が目の前に現れました。ゴミなども少なく比較的整備されている印象です。

国土は日本の4倍、人口はわずか320万人、年齢層は20才以下が50%を占めます。男性の寿命は66才とのことでした。

隣国はロシアと中国で、主な産業は、鉱業、サービス業、農業です。歴史的に社会主義国家から民主化運動により民主主義国家となりましたが、旧ソ連からの支援がなくなったことでエネルギーも病院も学校もなくなり大量の失業にあい、疲弊していました。その時に援助・支援したのが日本でした。このことは教科書にも記載があり、「苦しい時の友が真の友人」であり親日とのことです。

モンゴルは車社会で、移動の多くは自家用車です。それも日本車で燃費の良いハイブリット車が人気だそうで、故障しない実績が高く信頼されています。それは「故障＝死」につながるからです。冬場はマイナス数十度の世界、郊外は数日間、誰一人と通らない場所もあるからです。

また、都市部では冬の期間はマンションやビルの工事が法律で禁止されています。それだけ冬が厳しいということだと思えますが、単に効率優先の世界ではなく「働く人を大切にしている」ことかもしれません。(寒すぎてコンクリートが固まらない危険性もあるそうです)



モンゴル労働組合連盟

モンゴル労働組合と交流できたことも良い成果でした。局長や産業の会長などが出席していただき、丁寧な説明と歓迎を受けました。労組結成は1899年で今年120周年を迎えたそうです。36の組合組織があり45万人(18%)が加盟しています。素晴らしい点の一つは、組織の会長の女性比率が50%であることです。女性参画・男女平等感が強く互いに役割を担当し、母が一番の位置づけです。

労組では、法律は人に良いことばかりではないため、働き方や安全などのルール作りを国に働きかけています。さらに企業などの法律違反のチェック・是正や労働相談(非会員も)もおこなっています。

日本から学び、人間関係を大切に、「日本人は太陽の国の人」が心に残ります。一方で、今の日本は、一部としても本来の大切なことを失いつつあるのではとも感じました。

この機会を与えていただいた連合関東ブロック、優秀な団員の皆さん、ツアー添乗員の皆さんのご協力に感謝致します。バエルラー(ありがとうございます)

参加者の感想（連合埼玉執行委員 古屋 光一）

モンゴルはどのような国なのであろうかと、若干の不安を抱きながら9/15(日)に団員の皆さんと団結式をおこなった後、第28回海外交流視察団として日本を発ちました。約5時間半のフライトで夜のチンギスハーン国際空港に降り立つと、先ずは寒さを感じます。昼夜の寒暖差が大きい季節にあるため、昼はTシャツでも過ごせますが、夜はジャンパーが必要です。ホテルに向かう途中の品揃え豊富な大型スーパーにてペットボトルやお菓子をモンゴル通貨“トゥグルグ”にて購入してみました。もちろん、クレジットカードも利用できます。



首都ウランバートル

首都である“ウランバートル”はビルが立ち並び、車が多く慢性的な渋滞のある都市でした。人気の車両は故障が少ない日本製で、減税の対象にもなるハイブリッド車とのこと。日本から多くの中古車が輸入されています。恐らく、私を含め、日本人のモンゴルイメージは“広大な草原”と思いますが、都市部ではまったく感じられません。また、多くの強い力士を輩出しているモンゴルなので“相撲”イメージもありますが、相撲色も感じられませんので念のためご報告しておきます。

明けて訪問した“モンゴルコーセン技術カレッジ”では、電機電子・機械・建設を学べ、日本企業でのインターンシップもおこなっているとのこと。日本語を勉強するための張り紙が要所にあります。ぜひ将来は、人手不足の日本で働いていただきたいと思いました。



そして、自動車部品製造工場の“モン・シバザキ”は、埼玉の部品メーカー子会社で日本製設備にて生産活動をおこなっており、検品作業は一点ずつ丁寧に検査しています。この工場でも日本同様に品質を重視しており、“ものづくり”に対しての強い思いを感じます。また安全意識も高く注意喚起のポスターも張られていました。

翌日のモンゴル労働組合連盟の訪問では、250万人の全労働者の内45万人が組合員とのこと。1990年の社会主義から民主主義に変わって以降、失業率が高い時期は日本からの援助をもらっていたとのことでした。

日本大使館では、モンゴル人は遊牧民であったことから一度の出会いを大事にするため“お客に優しい”とお聞きしました。また良好な親日感情があるとのこと。どの訪問先でも我々への歓迎感が伝わってきます。日本企業との取引においては、市場規模的にマーケット対象になり辛いこと、加えて海がなく、輸送は空路もしくは陸路でロシア・中国経由となってしまうため、コストが割高になってしまうとのことでした。



スフバートル広場

モンゴル国は320万人と人口が少ないものの若年層の比率が高く、これから成長する国になると強く感じました。今まで日本企業は東南アジアを中心とした中国・インド・タイなど、主に低コストでのオフショアリングをおこなってきましたが、日本企業の“ものづくり”において、品質面も重要であることから、モンゴル人の人間性も含め、未来のモンゴル国へのビジネス投資もありであろうと感じました。

最後に、この貴重な機会を与えていただき、感謝申し上げます。ありがとうございました。

想定外も想定した政策実現を 九都県市首脳会議に対する要請書を提出

毎年、九都県市首脳会議(=埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県)の知事、横浜市・川崎市・千葉市・さいたま市・相模原市の市長が参加)の開催に合わせて連合東京・千葉・神奈川と共同して政策制度要請書を提出している。今年も小池東京都知事が首脳会議の座長の順番になり東京で開催予定(11月6日)であるため、10月18日(金)に6分野31項目の要請書を小池都知事に提出した。



左から連合埼玉小穴副事務局長、
連合千葉小山副事務局長、
連合東京杉浦会長、
小池都知事、
連合神奈川金井副事務局長



意見交換

首都圏を直撃した台風15号、19号により、長期の停電や通信障害、断水、家屋の損壊などの被害や、河川氾濫での浸水や土砂災害、竜巻による家屋損壊が発生したことを受け、復旧に向けて早急で、きめ細かな被害の把握に努めるとともに、災害弱者の体調に気遣い、激甚災害の指定を見据え復旧と被災者の生活再建支援に取り組むことなどを要請した。

もうすぐ選挙

桶川市議会議員選挙

- ◆佐藤 洋(さとう ひろし) 71才(国民・現3・連合埼玉推薦4回目)
 - ◆新島 光明(にいじま みつあき) 68才(社民・現2・連合埼玉推薦3回目)
 - ◆新妻 亮(にいづま りょう) 36才(国民・現1・連合埼玉推薦2回目)
- 告示日:2019年11月10日(日) 投票日:2019年11月17日(日)

現在予定される11月の日程表です

11月	行事等	
	連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日 金	①第12回四役・執行委員会(10:00～・13:00～・ときわ会館) ②第5回役員推せん委員会(12:20～・ときわ会館)	
2日 土		
3日 日		
4日 月	金属部門連絡会「第3回幹事会」(～5日・大洗)	
5日 火		
6日 水		連合「2020春季生活闘争中央討論集会」(10:00～・ホテルラングウッド)
7日 木		①埼玉県鉄「第44回定期大会」(11:00～・東武鉄道春日部支部会議室) ②さいたま市長清水はもと「市政報告会2019絆」(18:30～・パレスホテル大宮)
8日 金		①ときわ会館理事会(10:00～・ときわ会館) ②埼玉労福協「2019年度教育フォーラム」(13:30～・ときわ会館)
9日 土		
10日 日		①フード連合埼玉地区協議会「第18回代表者総会」(10:30～・大宮ソニックシティ) ②桶川市議会議員選挙告示日
11日 月		
12日 火		
13日 水	埼玉労働局との意見交換会(15:00～・埼玉労働局)	
14日 木		
15日 金		①2019受動喫煙防止対策セミナー(14:00～16:30・大宮ソニックシティ市民ホール) ②全水道埼玉「第66回定期大会」(14:00～・浦和コミュニティーセンター第13集会室) ③基幹労連埼玉県本部「第17回定期大会」(17:00～・東武ハンケットホール)
16日 土		
17日 日		①埼玉教組「第30回埼玉教育研究集会」(9:30～・国立女性教育会館) ②桶川市議会議員選挙投票日
18日 月		
19日 火		
20日 水	第16回定期大会(浦和ロイヤルバインズホテル)	
21日 木		
22日 金		
23日 土		
24日 日		①連合関東ブロック連絡会幹事会(14:00～・水戸京成ホテル) ②県央地域協議会研修会(～25日)
25日 月		比企地域協議会「第6回幹事会」(18:00～・中央労金東松山支店)
26日 火		交運労協「第27回定期総会」(15:00～・JAM埼玉友愛会館)
27日 水	①女性委員会「幹事会」(10:00～・あけぼのビル) ②女性委員会「第31回定期総会」(13:30～・あけぼのビル) ③「女性委員会セミナー」(15:30～)	①埼玉労福協臨時社員総会(10:00～・ときわ会館) ②こくみん共済coop埼玉推進本部「第2回産別労組等推進会議」(15:00～・こくみん共済coop埼玉推進本部)
28日 木	埼玉シニア連合「第23回定期総会」(あけぼのビル)	
29日 金	青年委員会「第11回幹事会」「第31回定期総会」(15:00～・17:30～・あけぼのビル)	連合関東ブロック連絡会「2020女性会議」(13:30～11/30 12:00・神奈川ナビオス横浜) ユニオン連合埼玉「第18回定期大会」(14:30～16:00・あけぼのビル)
30日 土		

Akebono Building
あけぼのビル

事務局長 | 佐藤 道明 |

◆何を伝え、何を訴えることができたのか

本コーナーのあけぼのビルは、歴代事務局長が時々の課題について、自分のものの捉え方や考え方の中で執筆してきた。小生も2009年11月19日開催の第11回定期大会で事務局長に就任した以降、今日まで執筆させてもらっている。

初めて執筆した2010年1月号では、「読み手に何を伝え、何を訴えることができるのか不安である」と冒頭記述している。その気持ちは未だ変わっていない。執筆してきた題材は、「運動方針」「春闘」「生活保護・貧困」「介護」「自殺対策」「教育」「組織拡大」「労働・雇用」「自然災害」「NPO」など、できるだけ幅広い分野に目を向けたつもりである。とは言え、題材として一番多かったのは「政治・選挙」であることは読み手の皆さんも感じていることだと思う。

この10年を振り返ると、事務局長に就任する直前におこなわれた第45回衆議院選挙において、念願の政権交代を果たし、連合が支援してきた民主党が政権を担うこととなった。3年後の第46回衆議院選挙で自民党に政権を奪われたものの、民主党政権下において労働政策や子育て政策が実現・前進したことは事実である。

「政治・選挙」ネタが多かったのは、2017年の第48回までに衆議院選挙が3回、参議院選挙が4回、統一地方選挙が3回、他にも県知事選挙を含む首長選挙や中間自治体議員選挙など多くの選挙に対応してきたからであろう。

特にこの一年間は、4月の統一地方選挙、7月の参議院選挙、8月の県知事選挙、10月の参議院補欠選挙と選挙一色の一年だったと言うものの、12回の執筆の内8回が「政治・選挙」に関するものであった（決して選挙好きなわけではないが・・・）。

文才の無い小生にとって、毎月のあけぼのビルの執筆は結構つらいものであった。それでも執筆の機会を長期に与えられたことで、書くことによって文章力が少しは得られたと思う。多くの方に「読んでよ」と言ってもらったに励みになり、一方、「今回はつまらなかった」と率直な意見をいただければ、もっと筆力のある文章を書かなければと反省した。

◆すそ野を広げる

2012年2月号で紹介した政治評論家の有馬晴海氏

が書いた「総理大臣になる方法」について再度紹介したい。

目次に目を通してみると、単なる政治評論本ではなさそうなので、読んでみることにした。断っておくが、わたしは政治家になるつもりもなく、ましてや総理大臣になりたいなどと思ってもいない。

読み始めるといきなり、「富士山はなぜ高いのか?」富士山が「高くあり続けるのは」「高いまま崩れないのは」という少々頓知混じりの質問が現れた。答えは、「すそ野が広いから」「尾根が広いから」である。「ふ〜ん」と言う感じであるが、すそ野が広くなればどんなに強固な物質であろうと富士山の高さまで積み上げることは不可能であり、連合運動も同じことが言えるだろう。

著者は富士山を「人」に置き換え、人が成長していく上であらゆる知識や見識がすそ野となる。すそ野を広げるためには、多くの物事に触れ、感受し、知識にしていかなければならないと述べている。すそ野を広げるには「これだ」と断言できるものはないが、著者はとっかかりとして「他人」「本」「旅」の3つの要素をあげている。説明は省略するが、日常と違う環境に自分を置き刺激を受けることが大切だと言うことだ。

◆出会いは財産

他人と話してみると、自分が想像したこともないことに興味を持ち、その知識量や深さに驚かされることがある。特定の分野の興味深い話しやどこで情報を得たのかなど、聞くこともさほど難しいことではない。自分との考え方の違いや物の見方の違いなども知ることができる。

何よりもネットワークが広がることは自分の活動領域も広がり、人生における財産となる。組合役員を退任した人は「活動をつうじて多くの人に出会えたことは財産である」と口をそろえて言う。

知識や経験は何ごとにも代えがたく、人が成長する過程において自らが学ばなければ身にはならない。自ら学ばない限り、知識は得ることはできない。経験は日常生活の中からも積み重ねていけるものではあるが、日常の環境とは違う環境に自らを置かなければ特別な経験を積むことはできない。どんなにお金を積んでも知識や経験を買うことはできない。

10年にわたって事務局長の役職を与えていただいたことで、多くの人との出会いから自身のすそ野を広げることができ、自己成長できたと強く感じている。

本号をもってあけぼのビルの執筆を終えることとなるが、長きにわたり駄文にお付き合いいただき、お支えいただいた多くの皆様に感謝を申し上げ筆を置く。

有難うございました。

2019.10.23